

ニホントカゲ

Eumeces latiscutatus

トカゲ科



ニホントカゲ

名前の由来

日本に生息するトカゲであることから。トカゲは、戸の陰にいることから「戸陰（トカゲ）」の意とする説、早く走ることから「敏駆（トカケ）」が転じた説などがある。

漢字名：日本石竜子、日本蜥蜴

形態的特徴

頭胴長（鼻先から尻尾の付け根までの長さ）60～96mm、尾はその1.5倍くらい。

体色は成長と共に変化するが、成体では背中が淡い褐色で体側に濃い褐色の筋が入る。オスは繁殖期にのどや腹がオレンジ色になる。幼体の体色は黒っぽく、尾は鮮青色をしている。

類似種と見分け方：ニホンカナヘビ。

カナヘビは胴と背中の間がはっきりしているので、筋張っ

て見えるが、トカゲは滑らかにみえる。



類似種、ニホンカナヘビ

生息環境・分布

川辺などの日当たりの良い場所。石垣や河原など隠れ場所と日光浴のできる場所があると良い。

地中で冬眠する。

分布：国外分布は、ロシア沿海地方。国内分布は、対馬を除く日本全土。北海道内では、全域に分布。

十勝地方では、低地から高地に分布。

食性・他生物との関わり

昆虫類、クモ類などを食べる。
鳥類や哺乳類などに捕食される

繁殖生態・寿命

京都の例では3月に冬眠から目覚めた後、4～5月に交尾、6月に産卵、7月下旬には孵化個体が現れる。

オスは2年、メスは2～3年で性成熟する。寿命は不明。

興味深い話

■幼体の尾は鮮青色をしており、「青トカゲ」とか「銀トカゲ」とも呼ばれる。

■尾が外部からの刺激によって非常に切れやすい。少し押さえてだけで簡単に切れ、切れた尾が激しく動く。天敵の注意をひきつけ、その隙に逃げる。幼体の尾が青く目立つのは、天敵の注意を体より尾にむけるためであると思われ

る。尾は再生する。

■爬虫類は変温動物であり、温度が低いと十分に活動することができない。気温の低いときや、日陰で活動した後など、体温を上げるために日当たりの良い場所に出てきて日光浴をしている事がある。

配慮事項

樹林や草むらなどが必要。他に石が積み重なった様な場所もあると良い。

生活サイクル

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
出現期				■								
冬眠期	■										■	
繁殖期				■								

参考文献

「日本動物大百科 両生類・爬虫類・軟骨魚類」日高敏隆監修
平凡社 1996

関慎太郎 平凡社 2002

「日本辞典」のウェブページ

「決定版日本の両生爬虫類」内山りゅう・前田憲男・沼田研一・

<http://www.nihonjiten.com/data/46556.html>

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種) 草花

(外来種) 草花

哺乳類

(水辺) 鳥類

(草原・樹林) 鳥類
ワシ・タカ